JIS

圧力計の特性試験方法及び校正方法一 第 1 部：一般用

JIS B 7547-1 : 2020

(JMIF/AIST/JSA)

令和 2 年 7 月 20 日 制定

日本産業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

日本産業標準調査会標準第一部会 構成表

	氏名	所属
(部会長)	酒井 信介	横浜国立大学
(委員)	伊藤 弘	国立研究開発法人建築研究所
	宇治 公隆	東京都立大学 (公益社団法人土木学会)
	大石 美奈子	公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会
	大瀧 雅寛	お茶の水女子大学
	奥野 麻衣子	三菱UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社
	鎌田 実	東京大学
	木村 一弘	国立研究開発法人物質・材料研究機構
	木村 たま代	主婦連合会
	佐伯 誠治	一般財団法人日本船舶技術研究協会
	佐伯 洋	一般社団法人日本鉄道車輛工業会
	椎名 武夫	千葉大学
	寺家 克昌	一般社団法人日本建材・住宅設備産業協会
	千葉 光一	関西学院大学
	寺澤 富雄	一般社団法人日本鉄鋼連盟
	奈良 広一	独立行政法人製品評価技術基盤機構
	西江 勇二	一般財団法人研友社
	福田 泰和	一般財団法人日本規格協会
	星川 安之	公益財団法人共用品推進機構
	槇 徹雄	東京都市大学
	棟近 雅彦	早稲田大学
	村垣 善浩	東京女子医科大学
	山田 陽滋	名古屋大学
	山内 正剛	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所
	和 逐 健 二	一般社団法人日本自動車工業会

主 務 大 臣：経済産業大臣 制定：令和 2.7.20

官 報 掲 載 日：令和 2.7.20

原 案 作 成 者：一般社団法人日本計量機器工業連合会

(〒162-0837 東京都新宿区納戸町 25-1 日本計量会館 TEL 03-3268-2121)

国立研究開発法人産業技術総合研究所

(〒305-8560 茨城県つくば市梅園 1-1-1 中央第 1 つくば本部・情報技術共同研究棟 TEL 029-861-2000)

一般財団法人日本規格協会

(〒108-0073 東京都港区三田 3-13-12 三田 MT ビル TEL 03-4231-8530)

審 議 部 会：日本産業標準調査会 標準第一部会 (部会長 酒井 信介)

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成者又は経済産業省産業技術環境局 国際標準課 (〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1) にご連絡ください。

なお、日本産業規格は、産業標準化法の規定によって、少なくとも 5 年を経過する日までに日本産業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

目 次

	ページ
1 適用範囲	1
2 引用規格	1
3 用語及び定義	1
4 設備及び測定器	2
4.1 設備及び測定器の要件	2
4.2 設備及び測定器の設置環境	4
5 特性試験方法	4
5.1 一般	4
5.2 試験環境	4
5.3 入出力特性試験	4
5.4 環境感受性試験	6
6 校正方法	7
6.1 一般	7
6.2 標準器	7
6.3 校正環境	8
6.4 装置の構成	8
6.5 装置の設置及び点検	11
6.6 校正の準備	12
6.7 校正圧力点及び測定回数	12
6.8 測定	12
6.9 記録	13
6.10 校正値の算出	14
6.11 校正結果の報告	14
7 校正の不確かさ評価	14
7.1 要因の抽出	14
7.2 各要因の定量化方法	15
7.3 不確かさの合成	17
7.4 拡張不確かさ	17
解 説	19

まえがき

この規格は、産業標準化法第 12 条第 1 項の規定に基づき、一般社団法人日本計量機器工業連合会 (JMIF)、国立研究開発法人産業技術総合研究所 (AIST) 及び一般財団法人日本規格協会 (JSA) から、産業標準原案を添えて日本産業規格を制定すべきとの申出があり、日本産業標準調査会の審議を経て、経済産業大臣が制定した日本産業規格である。これによって、**JIS B 7547:2008** は廃止され、その一部を分割して制定したこの規格に置き換えられた。

この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。

この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願又は実用新案権に抵触する可能性があることに注意を喚起する。経済産業大臣及び日本産業標準調査会は、このような特許権、出願公開後の特許出願及び実用新案権に関わる確認について、責任はもたない。

JIS B 7547 の規格群には、次に示す部編成がある。

JIS B 7547-1 第 1 部：一般用

JIS B 7547-2 第 2 部：高圧気体用

圧力計の特性試験方法及び校正方法— 第 1 部：一般用

Procedures of characterization and calibration for pressure gauges— Part 1: General

1 適用範囲

この規格は、圧力計の校正、試験、検査などにおいて標準器として使用する圧力計の特性試験方法及び校正方法について規定する。ただし、液体圧力で校正を受けた標準器による高圧気体用圧力計の特性試験方法及び校正方法は除く。また、重錘形圧力天びんには適用しない。

2 引用規格

次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。この引用規格は、その最新版（追補を含む。）を適用する。

JIS Z 8103 計測用語

3 用語及び定義

この規格で用いる主な用語及び定義は、**JIS Z 8103** によるほか、次による。

3.1

特性試験

圧力計の計量性能を評価するために実施する試験。入出力特性試験及び環境感受性試験がある。

3.2

レンジ

圧力計が測定対象とする圧力範囲。

3.3

スパン

与えられたレンジの上限値と下限値との差の絶対値であって、レンジの幅を表す数値。

3.4

標準器

被試験器又は被校正器に印加する標準となる圧力を発生又は測定する測定器。

3.5

被試験器

試験を受ける圧力計。

3.6

被校正器